

6 . B T C 研修修了者からのメッセージ

『モチベーター』

下河辺牧場勤務 野々垣 健太郎

第21期生（平成16年4月修了）

私はB T C 育成調教技術者養成研修の第21期生として、1年間の研修を受けました。

その1年間はとても充実したもので、研修の中身はもちろん、仲間達にも恵まれ、互いに競い合うことにより、高いモチベーションで過ごすことができました。

しかし、B T C の研修を終えてからは目標を持たずにいた時期があり、その時期は良い仕事もできず、働いていても楽しいものではありませんでした。

そのような経験を経た私は、現在、仕事に取り組むにあたり自分に明確な目標を持つことを心掛け、前向きに仕事ができるようにと考えています。

私の好きな言葉に「原状維持は後退だ」という言葉があります。これはとても的を射ていて、競馬の世界ではトレーニング方法や治療法など、1年経つとガラリと変化することが当たり前となっています。その変化にしっかり対応した上で、頭の中も変えていく柔軟性がとても大切なことだと考えています。

現在は、お世話になっているこの牧場でダービーを勝つという目標を掲げ、高いモチベーションを保ちながら日々の仕事に励んでいます。そして、毎週競馬場で走る育成馬たちが良い成績を残していくことで喜びを感じ、楽しくやっていたらいいと思っています。

まあ、たまにやって来るテレビの取材で、アイドルが来てくれたりするのもこの仕事の楽しいところでもあるのですけどね。



『高い志を持って』

アクティブファーム勤務 佐藤 駿

第27期生（平成22年4月修了）

育成調教技術者養成研修を終えて早いもので約1年が経ちました。私は馬に乗ったことも触ったこともほとんどなく、研修の最初のうちは慣れないことの連続で、とても辛いことばかりでした。それでも徐々に慣れていき、騎乗技術であったり、馬に関する知識、相手の気持ちを考えること、仕事に対する心構えなど多くのことを学びました。この1年間は、私にとって大変有意義なものになったと思っています。

研修終了後、牧場で働いてみて感じたのは、馬に対しても、作業一つとっても、すごくシビアだということです。自分の思うところよりも更にもう一つ上を求められているように思います。やはり競走馬というのは高価ですし、結果を求められる生き物なので、日常の管理の中でどれだけ細かいことに気を使えるか、また日々のトレーニングでどれだけより良いものを追求していけるかが結果に現れてくるのではないかと感じました。各牧場でもそういったところを色々と工夫したり、独自性を出して他牧場との差別化を図ったりして、より一層強い馬作りに励んでいます。こうした常により良いものを追求するという姿勢を忘れないことが、とても大事なのではないかと思います。私も経験や技術はまだまだ未熟ですが、こうした気持ちだけは先輩方に負けずに持っていきたいと思っています。

最後になりますが、この競走馬の育成という仕事はとても大変ですが、競走馬としての第一歩を踏ませるといって重要なステージでもあり、とてもやりがいがあるように思いました。ただ育成というのはレースに勝ったからといって名前が出るわけでも賞金が出るわけでもないですし、評価がうまくされにくいというポジションなのかなと思います。もちろん育成だけが大変なのではなく、オーナー、生産牧場、ジョッキー、調教師のみなさんも大変なのですが、もう少し育成というステージもスポットライトを浴びることがあっていいのではないかなと感じました。まだまだ全然偉そうなことを言える立場ではないのですが、育成の仕事が今述べた方向へと進んでいってくれるように、私自身、日々向上心を忘れずに仕事に取り組んでいきたいと思っています。

